

## 【エントリー情報】

自治体名：静岡県駿東郡小山町

学校名：小山町立小山中学校

ご記入者：鈴木 雄祐（すずき ゆうすけ）

## 【設問】

- ① 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。  
(1,500文字以内) ※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

小山町の目指す人間像は「凛とした富士、強く優しい金太郎のような子～生きて働く力を学び続ける小山町の教育～」です。その中で「授業の魅力化・学級の魅力化・学校の魅力化」を重点目標として掲げ、令和5年度は、研修のキーワード「つながり」を意識して各校で研修が行われています。単元間のつながりを意識して学習した成果を積み重ねること、課題解決中の対話を通して子ども同士が意見交流をすることといったつながりだけでなく、学年間の学習のつながり、地域の人材を活用した学習を通した学校と地域とのつながり、園小・小小・小中・中中の連携という点でのつながりも含めて、学びを深めることで目指す人間像に近づく子どもを育てることに力を注いでいます。

また、本校は「自他のよさを認め 共に伸びる生徒」を目指す人間像として掲げ、研修主題を「子どもがあきらめずに学び続ける授業の実現」と設定しています。生徒が主体的に粘り強く学ぶことができる姿を目指して、4人組の小集団を生かした授業形態を工夫すること、一人ひとりの追究を支える資料を提示することを研修の柱として日々の授業実践を行っています。中学校では小学校より専門的な学習内容を扱うため、生徒が学習に対して苦手意識を感じる場面も多くなります。その一方で学力が高い生徒にとっては、単調な授業展開では主体的に学ぶことができないこともあります。このような背景から、どの生徒にとっても自分に合った学び方で課題を追究することができるような授業づくりが求められています。このような授業実践を通して、生徒は自分のよさを見つけ、他者と共に学びを深めることで他者の持つよさや自分では気づくことができない自分のよさを認めることができると考えています。

このような目標を達成するために、ICTの活用は欠かせないものとなっています。生徒の追究を支える資料を提示する際、生徒の実態に合わせて視覚的に支援をすること、その場を動かずに全体で資料を共有することができる点がICTの利点であると考えています。また、教科学習の基礎基本となる内容を振り返るためのドリル学習を行ったり、さらに発展的な課題に取り組んだりする際も、ICTを活用することで個別最適な学びを保証することができます。より詳しく知りたいことを生徒がインターネットで手軽に調べることだけにとどまらず、生徒が目的意識を持ち、まるで文房具のようにICTを活用する姿を期待しています。本校の生徒は3つの小規模な小学校から進学してきます。それぞれの小学校はすべてが単学級で6年間の途中で1度も学級替えを経験したことがありません。また、小学校入学前からお互いのことを知っているような関係の生徒も多く、人間関係が固定化された状態で進学してきます。一見、落ち着いた人間関係が築かれそうですが、中学校へ進学したあとに、授業を中心として学校生活だけでなく、学級における人間関係が大きく変化することは生徒の不安感を大きくしてしまう要因ともなります。そこで、ICTを活用

することで、意見交流をする際に、「匿名性」を生かして自分の思いを表現したり、互いの意見を理解しようとしたりすることが生徒が持つ不安感を小さなものにするために役立ちます。どの生徒も安心して授業に臨むことができることは、本自治体や本校の目指す人間像に近づくために重要な条件であると考えます。

**② 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。（1,500文字以内）**

私は数学科として、中学2年生（2学級）と中学3年生（3学級）の授業を担当しています。授業を通して研修主題に迫るために主に2点に力を注ぎました。

1つ目は、個に応じた指導や支援です。中学校において、特に数学は学力差が顕著に表れます。そのため、課題が難しくあきらめてしまうことだけでなく、課題が簡単ですぐに解決できてしまうから学びを止めてしまうことも考えられます。課題を解決することが困難な生徒があきらめずに学び続けるために、4人組の小集団の授業形態を採用し、必要に応じて話し合ったり、表現した式や図を共有したりするようにしています。また、課題の解決に必要なヒントとなる資料を提示します。時には段階的に提示したり、個に応じて使い分けたりします。そして、授業の課題を解決した生徒は追加の課題に取り組むことができるようにしています。紙面の問題集だけではなく、タブレットも活用できるようにしています。

2つ目は、学びを振り返る機会を設けることです。日々の授業の振り返り、成果や課題を生徒と共有することでより良い授業づくりに生かします。また、課題を解決するための視点や、課題への取り組み方については積極的に生徒に伝えています。そして、章のまとめとしてレポート課題を課し、学習内容の定着を図っています。レポートには、既習事項を復習するために学習内容に関わる問いだけでなく、学び方について振り返る問いも含まれています。1つひとつの授業の学びをつなぎ、生徒が学びの成果を実感することで目標に迫ることをねらっています。

私は本校の研修主任も務めています。校内研修では生徒の姿から教師自身が学び、研修主題に迫る授業づくりができるようにしています。全体研修で協議した内容をまとめたり、研修の感想を集約したりして、研修だよりとして発行しています。教科の専門性が指導の偏りにつながらないように、目指すべき研修の方向性を共有したり、教師も研修の成果を実感したりするうえで研修だよりが役立っています。

校内研修では、ミニICT研修と称したタブレットの活用事例について紹介する機会も設けました。専門的な知識が豊富な各教科担当の教師が、ICTに関する知識も豊富になることによって、それぞれの授業において生徒がより活発に話し合いをしたり、意見共有をしたりすることができるようになりました。学習内容が難しいからといって学びをあきらめようとしていた生徒が、粘り強く課題に取り組む姿が見られるようになりました。また、課題を解決することができた生徒は自分なりの言葉や表現で周囲の生徒の課題解決を助けています。

今年度、小山町と御殿場市の合同授業研修会において、私は本校の授業公開を担当しました。中学2年「連立方程式の応用」の授業では、連立方程式を解くためのきっかけとなる資料の提示や生徒が考

えた解き方についてICTを活用して共有することで、研修主題に迫る授業づくりについて提案しました。やや発展的な課題に対しても、ヒントを活用して粘り強く考えたり、友達の解き方を参考により良い解き方を考えたりする生徒の姿が見られました。画面上のカードを見ながら解き方を質問したり、説明したりする生徒の姿、学力的に自力解決は難しいが友達の考え方をきっかけにあきらめずに答えを求めようとする生徒の姿が見られました。授業公開後の協議では、ICTの活用方法について活発に協議が行われました。2つの自治体では使用しているタブレット端末やアプリケーションは異なりますが、ICTを活用する利点や活用方法について協議できた点が大きな成果と言えます。

**③ (3-1) ICTを活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000文字以内)**

私は、ICTを積極的に授業や学級経営に活用することで、授業づくりや働き方についての考えが大きく変容しました。

これまでは、教師としての指導技術や教材の工夫に力を注ぎ、いかに上手に学習内容を教えるか、児童や生徒が熱心に学ぶ姿を引き出せるかという点ばかり考えていました。しかし、学級や学年、指導する教科が変わるとそれまでに身につけた指導技術が通用しないことも多く、その都度悩んでいました。児童や生徒の学力が向上したとしても、それはやや強引に教師が学びをリードしていたことが要因であると言える状態でした。

ICTを活用することで、視覚的に情報を提示しやすかったり、生徒の考えが共有しやすかったりと、利点を感じる場面が多かったです。昨年度まで勤務していた小学校では、リモート授業を行い、共同編集で発表の資料を作成する児童の姿が見られました。受け身の状態で進む学びではなく、児童が主体的に学びをつくり出す授業づくりができました。教師としては、教科指導を進める指導者であることはもちろんのこと、学びのファシリテーターとして役割の大きさを感じています。

また、ICTを活用することで個に応じた指導ができたり、個別最適な学習を進めたりすることができました。ICTの活用により、授業で扱う学習問題や関連する既習事項を繰り返し見ることができるような支援ができるようになります。また、複数の課題や発展的な課題、それらに関わるヒントや答えといったデータを蓄積したり、閲覧したりするうえでICTの活用が役立ちます。これにより、生徒が自分の学力に合った課題を選択したり、自分のペースで学習を進めたりすることができ、個別最適な学習を進めることができるようになってきました。

教材の準備についてもICTが活用されています。ICTを活用することで、写真や図などの視覚的に有益な情報を手軽に共有できたり、ワークシートをペーパーレスで配付したりすることができ、事務的な処理の時間が以前よりかからなくなってきました。これによって、落ち着いた心理状態で勤務をすることができ、その時間的、心理的な余裕を児童や生徒と関わる時間として生み出すことで還元することができます。このようにICTを上手に活用することで児童や生徒と教師との間に良い循環が回るようになりました。授業だけ

でなく公務においてもICTの活用が役立つ場面が多くあります。会議の資料を閲覧することができるため、ペーパーレスでの会議が増えました。また、データを共同編集することで効率良く資料を作成したり、会議の内容をまとめたりすることができるようになりました。「まず、やってみよう」という思いを大切に、教師が積極的に取り組む姿勢が見られるので、一部の教師だけでなく全体として積極的にICTを活用するようになったことで、良い影響が広がりました。

ICTを積極的に活用することで生徒の変容も見られるようになりました。学習に関しては、ICTの活用により必要な情報を調べることができたり、多様な考え方を知ることができたりすることで、本校の研修主題である「あきらめずに学び続ける姿」が多く見られるようになりました。常に手元にタブレットがあり、生徒がタブレットを使用する場面を自分で判断できるようになってきました。また、表現する手段の一つとしてタブレットの活用も積極的に選択できるようになりました。どんなときもタブレットを活用して表現するのが良いわけではなく、紙に書いたり、直接話したりする方が効果的な場面であることもあります。生徒が目的意識を持って課題に取り組むことが重要であることが明確になり、学習課題に対する生徒の意欲も高まりました。特別活動においても、アンケートで全校生徒の意見を集約したり、クイズアプリを活用して集会などを盛り上げたりする場面も見られました。諸活動のポスターを作成すること、学校行事の準備や企画でも活用することなど、学習以外の場面でもICTの活用という意識が日常生活に根付いたものとなっていると考えられます。

生徒の変容は肯定的に捉えることができます。これまで、授業では学習内容が難しいと感じることで学びを止めてしまうような生徒が、ICTの活用により粘り強く課題に取り組むことができるようになってきました。その一方で、タブレットの活動時間の長さによる健康的な影響や、情報モラルを扱う場面など、タブレットを使用するうえで懸念される課題も存在します。これらについては、教師だけでなく生徒も問題意識を持っています。教師が一方向的に指導、管理するだけでなく生徒と共にこれらの問題を解決することがデジタルシティズンシップ教育を進めるうえでも重要であると考えています。

### **(3-2)ICT活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。(1,500文字以内文字以内) ※本設問のみ任意回答**

本校では、全校生徒を対象に学習に関するアンケートを7月と12月に実施しました。主な設問は3つで、それぞれ「①研修主題 あきらめずに学び続けること」「②マナビーズを生かすことができたか」「③タブレットの活用」について問いました。(マナビーズとは、本校で採用している3、4人組の学習形態のことです。)

「①研修主題 あきらめずに学び続ける」に関しては、肯定的な回答が77ポイントから80ポイントに増加しました。課題が難しいと感じても、粘り強く考え、課題の解決のために学び続ける生徒の姿が多く見られるようになりました。じっくり考えたり、資料を使ったりする際に、ICT機器が活用されています。インターネット検索で単語や用語を調べる生徒、オクリンクやムーブノートでは友達が提出したカードを参考に考えを深めようとする生徒の姿が見られました。私が担当している数学では、関数のグラフをつくり出すアプリを活用して関数のグラフの特徴を理解しようと、係数を変えながら何度もグラフを作成する生徒の姿も見られ

ました。

「②マナビーズを生かすことができたか」に関しては、肯定的な回答が92ポイントから99ポイントに増加しました。3、4人組の学習形態はお互いが向き合っている状態なので、一斉指導の学習形態よりも意見の交流が容易になります。多様な考えに出会うことで、学びを深めることができた生徒が増えました。また、自分の考えをオクリンクやムーブノートのカードを通して容易に表現することができます。また、匿名性を生かすことで自信が持てない意見も気軽に表現することができます。このように考えを表現する方法が多様に存在することが、生徒の心理的安心にもつながっていることも、肯定的な回答の増加につながっているのだと感じます。

「③タブレットの活用」に関しては、肯定的な回答が96ポイントから98ポイントに増加しました。オクリンクやムーブノートの利便性が生徒にも伝わり、考えを表現したり、共有したりするツールとして有効なものであることがわかります。また、ドリルパークの活用も非常に有効であると考えられます。学力上位層の生徒は、学級全体での課題を解決したあとに学習内容を定着させたり、発展的な問題を通してさらに力を高めたりする際にドリルパークの問題を活用しています。また、学力下位層の生徒は、既習事項の振り返りを行う際にドリルパークの問題を活用しています。学年を遡って問題に取り組むことができる点が良い点です。学習課題を解決する際に、どのようにタブレットを活用するかは生徒自身が考え、選択するべきものだと考えています。生徒は、タブレットの機能が多く存在すること、学習課題を解決するために適切な使い方をすることができるようになりつつあることがアンケートからわかりました。

#### ④ お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立った場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1つのエピソードに絞る必要はございません。(2,000文字以内)

ミライシードを活用するなかで、印象に残る活用方法を5つ挙げました。

##### オクリンク① 課題を共有する

授業において、課題が難しすぎると解決する過程であきらめてしまう生徒が多くなり、授業の雰囲気为重くなり、学びが進まないことがあります。その一方で、課題が簡単すぎると課題を解決できる生徒は多くなりますが、学びの深さとして物足りません。しかし、学力差があり、多様な個性の生徒が所属する学級において、どの生徒にとっても適切な学習問題が存在するわけではありません。そこで、段階的に難易度を変えて学習問題を提示することにしました。このような学習問題を黒板やワークシートを通して提示すると時間がかかってしまいます。そこで、オクリンクのカードを活用することで、生徒にとってもわかりやすく、扱いやすい課題という状態になり、教師にとっても準備時間の削減ができるという良さを感じることができました。

##### オクリンク② スタンプ機能

新しく搭載されたオクリンクのスタンプ機能は、生徒にとっても好評です。どのような形でも生徒は自分の考えを評価されたら満足度が高まります。デフォルトで搭載されたスタンプも好評でしたが、それに加えて自作

のスタンプも積極的に活用しました。

まず、Microsoft EdgeのImage Creatorの機能を活用し、生成AIに画像を生成させます。その後、生成された画像をCanvaにて編集し、背景を除いたり、文字を加えたりします。編集した画像を保存し、オクリンクのオリジナルスタンプとして登録します。

ほかの授業では見たこともないスタンプを目の前に、生徒の意欲がさらに高まる姿が見られました。また、このような生成AIやアプリケーションを用いた画像生成、編集の方法は校内研修でも紹介したり、生徒にも紹介したりしています。タブレットやICTの持つ機能を紹介することで、受け取った側の教師や生徒がより良く活用する方法を考えることができます。そのアイデアを共有したり、実際に挑戦したりすることでさらに画期的なアイデアで学校生活を豊かなものにできると考えています。

### **オクリンク&ムーブノート ヒントカードとして活用できる**

オクリンクでは提出ボックス、ムーブノートでは広場において生徒が提出したカードを全員が見ることができます。これによって、問題の解き方のヒントを見たい生徒や答えを確認して自信を得たい生徒が安心して学習に臨むことができます。そもそも、数学において、学習問題を解くことができない状態は生徒にとって不安感が大きくなることにつながります。問題を解くための支援として特別なワークシートを用意して配付したり、近くの生徒と相談したりできるような授業の進め方が考えられます。しかし、中学生ともなるとその特別感をあえて敬遠したり、人間関係によって相談しづらい状況が発生したりすることもあります。そこで、ICTを活用して個別にヒントカードを送付すれば、特別感や人間関係を意識することなく素直に教師の支援を受けることができます。

### **ムーブノート① 多様な解き方を共有する**

数学の学習問題において、そのほとんどの場合で答えは1つになり、その明確さが生徒にとってもわかりやすいものであると考えています。しかし、1つの答えを導く過程が複数挙げられる学習問題も存在します。多様な解き方を理解することで、より合理的に解く方法について考えることができるようになったり、共通点から数や式、図形の一般性を導いたりすることで数学の学習における目標に近づくことができます。このような理由から、多様な解き方を理解することは、数学において重要なことであると考えています。

これまでの授業では、複数枚のワークシートを用意して児童や生徒に書き込みをさせたり、それぞれの解き方を黒板に書いている間、待っている時間が発生したりしていました。ムーブノートの活用はそれらの手間を省き、子どもたちが学び合う時間を増やすことにつながりました。

### **ムーブノート② 立場を明確にして考えを表現することができる**

道徳の授業など、多様な価値が認められる学習において、ムーブノートのスタンプ機能を効果的に活用することができました。中学校の道徳で扱う資料の中には大きな配慮が求められる資料もあります。そのため、生徒が自分の考えを持ちづらい場面も考えられるため、直感的かつ視覚的に考えを表現しやすいスタンプ機能が生かされます。道徳として迫る価値について、そもそも多様な考えを持つ生徒が存在することがわかることで、生徒が互いの考えを尊重しやすくなると考えます。